

## 学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	SKENDER LIZATOVIC MAJA 【比較社会文化学専攻 平成25年度生】	<p>本論文では日本語母語話者同士の間で行われる母語場面及び、道を教える側が母語話者でかつ道を聞く側が中級日本語学習者（以下 NNS）である接触場面のデータを基に、日本語の母語場面と接触場面のそれぞれの場面の道順説明の特徴を明らかにした後、両場面の比較によって共通点と相違点を明らかにし、異文化間コミュニケーション教育への示唆を得ることを目的とする。</p> <p>本論文は3つの研究から構成される。研究1では道を教える側の発話を分析した結果、接触場面において道を教える側である日本人は道順説明の有効性より、NNS の認知負荷を軽減することを重視しているという結論が導かれた。研究2では道を聞く側の応答から、道を聞く側がただ受け身になって聞いているだけでなく、相づちや実質的発話による応答で道順説明の展開に影響を及ぼしていることが指摘された。研究3では道を教える側の反復や言いかえが、道順説明の分かりやすさや有効性を高める重要な働きをしていることを明らかにした。</p> <p>第1回審査会では、これまでの研究では道を教える側のみに注目していた道順説明の特徴を、道を教える側と道を聞く側、両者の発話に着目して分析するとともに母語場面と接触場面の比較をとおして日本語の道聞き談話の特徴を包括的に捉えている点、日本語教育への具体的な示唆に富む点などが高く評価された。しかし、分かりにくい記述があること、結果の説明に不十分な点があることなどが、改善すべき事項として指摘された。申請者がこれらの要求に十分に応えた修正版を作成したことを確認した後、最終審査に進むことを決定した。</p> <p>公開発表会では重要な点を分かりやすくまとめた発表を行い、参加者や審査委員の質問にも真摯な姿勢で的確に応答した。以上によって審査委員会は、博士（人文科学）(Ph.D. in Applied Linguistics) の学位授与に相当すると判断し、合格とした。</p>
論文題目	日本語の道聞き談話における道順説明の特徴 —母語場面と接触場面を比較して—	
審査委員	(主査) 教授 佐々木 泰子	
	准教授 西川 朋美	
	准教授 野口 徹	
	准教授 伊藤 さとみ	
インターネット公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否 ( <input checked="" type="radio"/> 可 ・ 否 )</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p style="margin-left: 20px;">イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p style="margin-left: 20px;">ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	